

『雨洗風磨』

港中学校の為に 兵庫県知事 貝原俊民

雨洗風磨《うせんふうま》 (中峰和尚行録) 雨に洗い風に磨く

文字通り、雨に洗われ風に磨かれるように、人生の辛酸をなめ苦難に耐えて初めて立派な人物が出来るものであり、温室育ちや親の七光りでは本当の人物は育たない。雨や風にさらされ（色々の出来事に耐えて）ることによって雨に心が洗い清められ、風に精神が磨かれる。雨風に耐え困難に立ち向かい自己を鍛える。

貝原俊民 氏 … 1986年～2001年 4期15年間、兵庫県知事を務める。



『清風』

港中学校の為に 文部大臣 有田喜一

清風「清らかな風」、「涼しい風」の意。「新鮮な空気」という意もある。

有田喜一氏…氷上町出身衆議院議員 1966年佐藤内閣 文部大臣を務める。

学校沿革史に「昭和41年12月9日 文部大臣揮毫「清風」扁額の寄贈を受ける

… 大道博氏」とある。



『温故知新』

鶏洲書

温故知新 … 「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」と読まれるのが一般的。様々な出来事とそれに対する人々の言行から、その根底に流れる真理を得て、それを自分なりに発展させていくこと。

西村政夫（鶏洲）さん … 瀬戸地区在住の書家 書道教室もされており、港かるたの題字や港中学校体育館の校歌・校訓も西村さんが書かれている。

少年老い易く学成り難し
一寸の光陰こういん軽んずべからず
未だ覚めず池塘ちとう春草の夢
階前かいぜんの梧葉已ごようすでに秋声

岳州書

少年老い易く … 若者といえども年はとり易いものだ。それに反して学問はなかなか成就しない。だからわずかな時間でもおろそかにしてはならないのだ。池の堤にもえる春の草が夢を見ているうちに、庭先の青桐の葉に、いつのまにか秋風がしのび寄っている。

岸本与一（岳州）さん … 畑上地区在住の書家

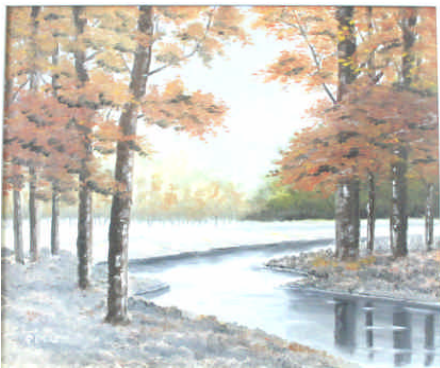
少年易老學難成一寸光陰不可輕未覺
池塘春草夢階前梧葉已秋聲
岳州書



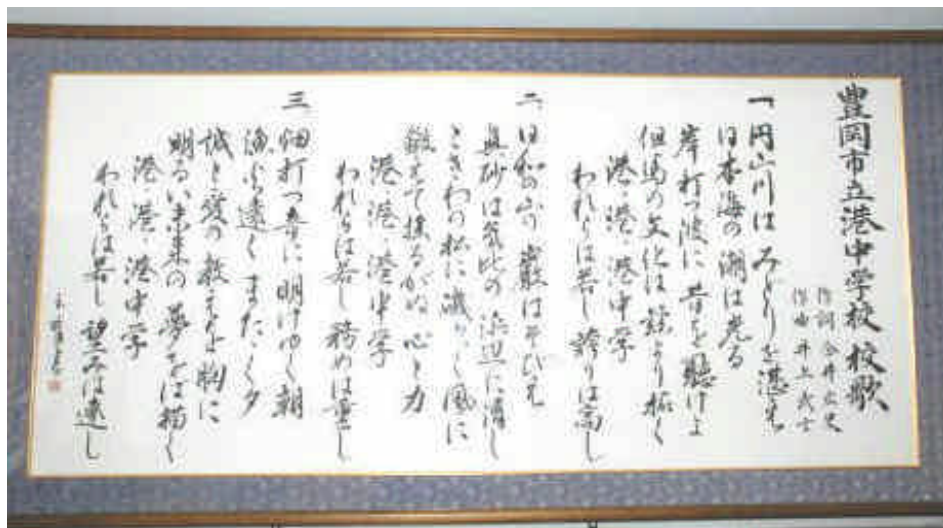
『 藝 於 遊 』
芳翠題

藝 於 遊 … 芸に遊ぶ。孔子が言った言葉として、論語の中に書かれている。
「藝」(学問)を遊びのように楽しみながら学ぶことが大事であり、
反対に、「遊」びの中からも真剣に学ぶべきことが多い

小川多津枝(芳翠)さん … 畑上地区在住の書家



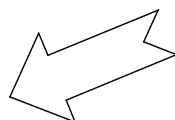
瀬戸地区 画家 遠藤六郎さん



港中学校歌

玉峰書

→ 谷川玉峰 氏 書窓庵主
(豊岡市立野町在住)



いつか、大空へ(巣立ちを待つコウノトリ)

コウノトリは二つがい (計4羽) いる。

剪画 坂田陽一 氏 (気比在住) 2002.08.26. 作



平成8年(1996年)10月23日空撮

豊岡市役所秘書広報課(堂垣さん)より、フィルムをお借りして、
「写真のミツタ」(上田さん)に依頼して作成。
校歌の文字は、校長室に掲示の谷川玉峰氏書を活用。

第20代校長 丸山一則 贈 2011. 12. 31.